

登録コード	SSD01500	開講年度	2026				
授業題目	古環境復元論					担当教員	吉田 孝紀
英文授業名	Analysis of Paleoenvironments					副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	不定期		
講義室					備考		
信大コンベンション	該当						
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】				⇔	【授業の達成目標】	
	2 4 SSカリ・理学						
	～24SS【DP3】それぞれの研究分野における高度な専門的知識とグローバルな情報収集・発信能力				⇔	地球環境の変遷を生物相・気候・古地理・テクトニクスなどの観点から説明できるようになる。	
	2 6 SSカリ・理学, 2 5 SSカリ・理学, 2 4 SSカリ・理学						
	【DP5】専門知識に基づいた見識を持ち、その妥当性を理論的に説明し、議論する能力				⇔	地球環境の変遷を生物相・気候・古地理・テクトニクスなどの観点から説明できるようになる。	
	2 6 SSカリ・理学, 2 5 SSカリ・理学						
	【DP3】さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力				⇔	地球環境の変遷を生物相・気候・古地理・テクトニクスなどの観点から説明できるようになる。	
(2)授業の概要	地球環境の変遷は生物相・気候・古地理・テクトニクスなどの相互作用によってなされてきた。この授業では、講義においてそれぞれの作用の具体例を挙げ、演習によってそのメカニズムと相互作用について理解する。						
(3)授業のキーワード	情報収集能力, 分析能力						
(4)授業計画	授業計画 第1回：堆積物の組織と形成環境 第2回：堆積物の化学組成 第3回：堆積物の変質と環境条件 第4回：テクトニクスの復元と推定：テクトニック環境の分類 第5回：テクトニクスの復元と推定：テクトニック環境と碎屑物組成 第6回：テクトニクスの復元と推定：テクトニック環境と堆積盆形成 第7回：地球史における海洋・陸上環境の変遷 第8回：古海洋環境の復元と推定 第9回：古陸上環境の復元と推定 第10回：地球史における生物相の変遷 第11回：地球史における地理の変遷 第12回：古生物相・古地理の復元と推定 第13回：古環境の復元に関する検討例紹介 第14回：古環境の復元に関する演習1 (生物岩の組織) 第15回：古環境の復元に関する演習2 (碎屑岩の化学組成) 毎回課題を課す。授業中に課された課題は1週間以内に提出のこと。						
(5)成績評価の方法	以下の点に関するレポートと提出課題による。 1. 堆積物中に記録された生物相や堆積岩の構成の理解(40点) 2. 堆積物からの抽出方法と意味の理解(30点) 3. 地球学で用いられる様々な検討方法の特性の理解(40点)						
(6)成績評価の基準	得点率による評価基準は次のとおりとする。90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可						
(7)事前事後学習の内容	掲示やeAlpsでの告知による。						
(8)履修上の注意	・地質学, 鉱物学, 地球化学の基礎知識(大学3年生程度)を有した上で履修するのが望ましい。 ・履修に関する連絡はeAlpsを通して行うので、見落としのないように注意すること。 ・講義に関わるテーマで、外国人研究者による講演を加える場合がある。						
(9)質問,相談への対応	オフィスアワーは月曜日の午後1～3時、理学部C棟の吉田研究室へ。 メールでの質問も受け付ける (kxyoshid@shinshu-u.ac.jp)。						
【教科書】	特になし						
【参考書】	授業中に紹介する。						